

HyakkatenTen Exhibition

百貨店展

夢と憧れの建築史

2022 9.7 Wed. — 2023 2.12 Sun.

11:00-19:00 入館無料

高島屋史料館TOKYO 4階展示室

休館 月・火曜(祝日の場合は開館)、年末年始(12月26日-2023年1月3日)



主催：高島屋史料館TOKYO | 監修：浅子佳英(建築家・編集者/PRINT AND BUILD)、菊地尊也(建築研究者)
協力：小泉立(建築家/PRINT AND BUILD) | グラフィックデザイン：原田祐馬・岸木麻理子(UMA/design farm)

新型コロナウイルスの感染拡大状況等をふまえ、臨時に休館日・開館時間を変更する場合があります。最新の開館状況は、公式ウェブサイトをご参照ください。

高島屋史料館
TOKYO

百貨店展

夢と憧れの建築史

本展は、近代的な百貨店・デパートストアが誕生した20世紀初頭から、大型商業施設が多数出現する現代までを、主に日本の百貨店建築のファサード、あるいはその空間の変遷に注目しながら、年表形式でたどろうとする試みです。これは、通常は脇役に留まりがちな年表を主役にするという、挑戦的な展示でもあります。さらには、現代のショッピングモールが外観に装飾を持たず、内装に本質がある*ことを鑑みると、示唆に富むアプローチとも言えるでしょう。

特に注目するのは、戦前の実験的な百貨店建築です。当時の百貨店は、人々の憧れを誘うもので、単なるショッピングのための空間を超え、エンターテインメント、ひいては文化装置として機能していました。そして、こうした百貨店の機能と役割は、その建築空間やファサードに色濃く現れました。例えば、屋上庭園もその一つです。現在もターミナルビルとしてその存在感を放つ松屋浅草店(1931年、久野節設計)には、かつて屋上に本格的な遊園地と動物園が存在しました。また現存しませんが白木屋日本橋店(1928年、石本喜久治設計)のファサードは、壁面にガラスを用いて、重厚な百貨店建築を脱しようとする非常にモダンなものでした。2019年にグランドオープンした大丸心齋橋店(1922年心齋橋筋側・1933年御堂筋側、ヴォーリス建築事務所設計)は、往時の百貨店建築の華やかさを今に伝える貴重なものといえるでしょう。

本展が、商業や消費活動がいかに現代の都市形成に深く関与してきたかを再認識する機会になるとともに、これからの未来の可能性を考える契機になれば幸いです。

*東浩紀・大山顕「ショッピングモールから考える」幻冬舎、2016



1. 竣工時の松屋浅草店(1931年、提供:清水建設) / 2. 御堂筋側増築で全ブロック完成した大丸心齋橋店(1933年、提供:J.フロントリテイリング史料館) / 3. 竣工時の白木屋日本橋店(1928年、提供:石本建築事務所) / 4.ハリウッド映画のクライマックスシーンの舞台にもなった松屋浅草店屋上のスカイルーザー(1952年、提供:松屋) / 5. 大丸心齋橋1階南側のエレベーター(1933年、提供:J.フロントリテイリング史料館)

2022.9.7 Wed. — 2023.2.12 Sun.

11:00-19:00 入館無料

高島屋史料館 TOKYO 4階展示室

休館 月・火曜(祝日の場合は開館)、年末年始(12月26日-2023年1月3日)

講演会開催のご案内

会期中、本展を監修した浅子佳英氏によるセミナー(録画映像)のWEB上での公開を予定しています。詳細が決定次第、当館HPにてご案内します。



高島屋史料館 TOKYO

東京都中央区日本橋2-4-1
日本橋高島屋S.C.本館4・5階
※5階旧貴賓室は、対面でのセミナー開催時のみ開館します。



<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo/>

アクセス

- ・JR「東京駅」八重洲北口から徒歩5分
- ・東京メトロ 銀座線・東西線「日本橋駅」直結
- ・都営地下鉄 浅草線「日本橋駅」から徒歩4分

※駐車場は大変混雑しております。お車の入庫には非常にお時間が掛かるため、ご来館の際は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

